

ひかりのこ

8,9月園便り

認定こども園
聖ミエル幼稚園
2023年8月17日

月主題：祈りあう・おもしろい

今年の夏休みは、猛暑が続き、夏らしい、というか夏らしすぎる毎日でした。

皆さんどのように過ごされたでしょう。

7月26日(水)～28日(金)は、日本聖公会保育連盟の全国大会が大沼、函館で行われました。私たち北海道のチャプレンと保育者たちはホスト役として、全国の先生方をお迎えしました。コロナが第5類となり、聖公会の仲間も集まることができ、お祈りの中で、子どもたちのための研修を行いました。

基調講演で講師をして下さったのは、放送大学教授、精神科医で教会の信徒さんでもある石丸昌彦先生です。たくさんの精神科関連の本を執筆されている先生ですが、『神さまが見守る子どもの成長(2020 日本キリスト教団出版局)』は子どもたちについて書かれた本です。これは先生が教会員でもある「日本基督教団柿ノ木坂教会」の教会学校の通信のお父さん、お母さん向け記事として3年間掲載されていたものを、冊子にまとめたものです。精神科医のお立場で、子どもの成長と神様との関係が書かれています。

石丸先生のお話の中で、心理学者D.Wウィニコットの言葉が印象に残っています。「ほどほどの母親(good enough mother)こそ最良の母親。」そうそうその通り。(と私はうなずきました。)完璧なお母さんよりほどほどのお母さんでいいのです。「お母さん、しょうがないなあ、僕が手伝ってあげるよ。」「お母さんも失敗するんだね。僕も失敗していいんだね。」と、ほどほどのお母さんに育てられた子どもは、失敗を怖がらない、他人にも優しい子どもに育ちます。

また、子どもが健康に育つには、「身体的・精神的・社会的・霊的に申し分のない状態」であることが大切である、というお話もありました。

私の解釈ですが、「身体的一元気いっばいに動けること」、「精神的一年相応に自分の思いを伝えられること」、「社会的ー先生や、友達とかかわることができること」、そして「霊的ー何か大きなものにすっぽり包まれ、守られる中で“自分は大丈夫な存在である。”と感じること」ではないでしょうか。

新学期も子どもたちが神様とたくさんの愛情に包まれて、健康に大きくなってくれることを願っています。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「夏が来れば思い出す」

子どもの頃、毎年夏に、父親の実家に1週間ほど滞在するのが家族の恒例行事でした。くじらを見に行ったり、熊野古道の杉の間を走り回ったり、溪流沿いの茶畑の新茶を味わったり、北海道の海では見たこともない大きなウツボを見つけて兄と驚いたことを今でもよく覚えています。

幼少期の体験は、言葉や理屈よりも、目、鼻、口、耳、手足、体の五感で触れた出来事と強くつながっているように思います。虫を捕まえたり、見たこともない果物を食べてみたり...時には、怪我や病気の体験も、人の痛みや自分の体の成長と向き合うきっかけとなることもあるでしょう。

周りの人の視点・ものの見方も、子ども達の心の栄養源です。私たちが虫を怖がれば、子どもにとっても虫が苦手なものになっていくかもしれません。でも、そこから興味を持ち始めて、苦手を克服して昆虫博士に育ってくれるのかもしれませんが。私たちが想像する以上に子ども達の体験に対する反応は柔軟で繊細です。これからもたくさんの体験や思い出が、子ども達の心に、幾重にも重なって、大きく成長していくことを神様にお祈りしています。

チャプレン 司祭 上平 更